Kiyo Muraguchi Women's Clinic

きよくり news

CONTENTS

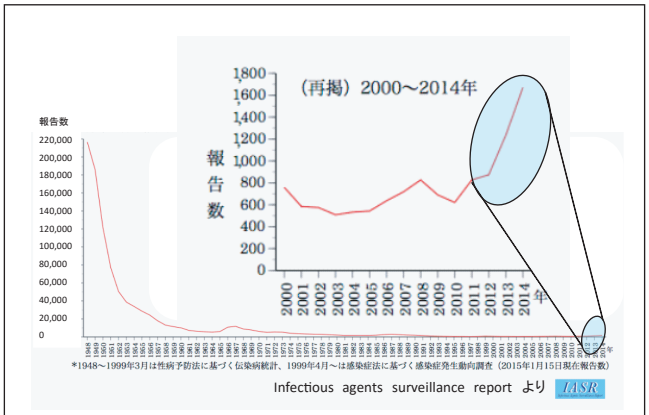
・梅毒が急増加しているのをご存知ですか
・村口きよ女性クリニック訪問
・ひとりの時間

VOL 48
2016.9 発行

Muraguchi Kiyo Women's Clinic

梅毒が急増加しているのをご存知ですか

院長　村口喜代



梅毒患者の報告総数（1948～2014）

近年「梅毒」が急増加していることをご存じでしょうか。 梅毒はほとんど過去の病気と思われてきました。 1940 年代に特効薬ペニシリンが発見され、 年間 22 万人いた梅毒患者はどんどん激減し、 1960 年代には約 1 万人、 2000 年以降は 1000 人を下回り推移してきました。 しかしながら、 2010 年以降再び増加に転じ、 以降急増加を続けています。 2015 年は前年の 1.5 倍（男性 1.4 倍、 女性 2.0 倍）でした。

感染経路別では、 2010 年から 13 年は男性患者の増加が顕著であり、 男性同性間感染が多かったが、 2014 年には男性の異性間感染が増加し同性間感染とほぼ同数となり、 また若年女性の報告数が急増加しています。 感染者は東京、 大阪、 愛知、 神奈川、 福岡で全国の報告数の 62%を占め、都市部に多く報告されています。

なぜ、 梅毒が増えてきたのか

その原因の一つに中国人観光客の急増加・爆買いの関連を指摘する声が上がっています。 世界の感染症情報によると、欧米諸国、 中南米、 中国からも増加の報告が伝えられてきています。 ここで中国の感染状況に注目してみます。 現在中国で最も猛威を振るっている性感染症といえば、梅毒とのことです。 中国衛生部の「全国法定伝染病疫情状況」によると、2015 年度の梅毒感染者数は 433,974 人（15 年前の 10 倍以上）であり、 人口 10 万人あたり約 32 人、 夫婦間感染や先天梅毒児の出生が急増しているとのことです。 日本の厚生労働省の報告では、 日本の梅毒感染者数は 10 万人あたり 0.1 以下ですので、 中国では日本の 320 倍の感染者がいるということです。 この結果に加え、 中国人の観光客の急増加、 風俗店に働く若い女性の感染が増えているとの報告などから、 こうした指摘はかなり妥当性があるように思われます。

今年、 日本産科婦人科学会、 日本性感染症学会が相次いで「梅毒の流行に関する注意喚起」を発表しています。 いずれにしても感染予防のための注意が必要です。「不特定多数と関係を持たない」「コンドームを必ず使う」が基本です。 しかしコンドームだけで万全とは言えません。 病原菌・梅毒トレポネーマは皮膚や粘膜の傷から感染しますので、 皮膚や粘膜に傷があるときは、 キスや患部と皮膚の接触でも感染する可能性があります。

初期症状（手のひらや足の裏に多発する赤茶色の発疹、 発熱、 倦怠感など）があれば即受診することですが、 全く症状がない不顕性感染もありますので、心配なときは受診すること、検査することです。 妊娠したときは、胎児の母子感染、流産・早産が起こり易くなります。

人間が生きていく限り、性感染症との戦いは尽きることはありませんが、safer sex に心がけ、安心な日々を送りたいものです。

村口きよ女性クリニック訪問

「セクシュアリティと人権を考える会」宮城学院女子大学　浅野富美枝　教授

2016 年 7 月 20 日、「セクシュアリティと人権を考える会」は今年も、 村口きよ女性クリニックを見学訪問しました。 今回は学生 19 名その他 2 名計 21 名と、昨年のほぼ倍の人数で押しかけました。 村口先生、 スタッフの皆様、 仕事終了後のお疲れのところ、 ご親切に対応してくださり、 ありがとうございました。

なぜ参加者が増えたのか、 不思議だったのですが、 学生の見学レポートを読んでわかりました。 一つは、 ごみのような性情報が蔓延しているなか、 若い女性たちは性に関する信頼すべき情報にアクセスできず、 不安にかられていたということ、 もう一つは、 自分のからだの健康に不安を抱いている学生が多かったということでした。 また、 昨今、 少子化や不妊夫婦の増加との関係で女性の妊娠適齢期が話題になっていることから、 村口先生がレクチャーでこのことについて触れてくださいました。 レポートの中には、 このことに対する学生の意見も多数ありました。 読んでみて、 学生はけっこうまっとうな考えをもっていることがわかりました。 その他、 女性クリニックを実際に見学して、 クリニックは怖いところという思い込みが払しょくされたという感想も例年通りありました。

以下、 学生の感想をいくつか紹介します。

☆ ピルは望まない妊娠を避けるためのものとだけ思っていましたが、 卵巣を休める働きがあり、 卵巣の働きすぎによる体調の不良を改善する働きがあることを知りました。 このような知識は、 本来、 学校の保健の授業で教えるべきことだと思います。

☆ 4 か月に 1 度、 生理痛が激しい時があり、 質問したところ、 生理痛も隠れた病気を見極めるポイントの一つだということが分かりました。

☆ 女性には妊娠に適した時期があることを学びました。 しかし、現代社会は育児休暇がとれたとしてもその後の社会復帰が困難であるなど、女性にとっては仕事と子育ての両立が難しい状況があります。 そのなかで、 若い女性は早く子どもを産み、 育てろなどという政治家も多数います。 こんな状況で果たして少子化などの社会問題が解決するのか疑問です。

☆ 年齢によって女性の性機能が変化することを学びました。 女性のライフスタイルが大きく変化している今日、 私たちはもっと女性の身体と健康についてしっかりした知識を持つことが必要だと思います。 あわせて、 不安になったときに気軽に相談したり、 女性クリニックを利用できるような環境が必要だと感じました。

☆ 女性クリニックに実際に行ってみて、 女性の悩みを解決する現場を間近で知ることができました。 クリニックに来る患者の診察内容は私たち女性の誰もが体験するものです。 にもかかわらず、 クリニックに行くのに躊躇しがちな雰囲気が周りにあります。 不安になったときには気軽に行っていいところなのだということを、 もっとチラシなどで知らせる必要があると思いました。

☆ 実際に MT ビルに行ってみた結果、 歯医者やコンビニ、 企業や飲食店などが入っていて、「あの人は今から婦人科に行くのだな」と周囲から思われることも少なく、 訪問しやすいところだと思いました。 室内はピンクや木製で、 とても安心できる空間デザインになっていました。 また、 訪問理由を口で言わなくても、 メニュー表を指さして伝えるなど、女性の立場に立った対応もうれしく思いました。

これからも不安を抱えている若い女性の立場に立って、 自立した女性を医療の現場から支え、 エンパワメントしていただけることを期待しています。 村口先生はじめスタッフの皆さんのご活躍を心から願っています。

私のオフタイム　～ひとりで過ごす時間～

患者情報管理　柴田泰子

私のリフレッシュタイムは一人で過ごす時間です。 家族や友人と過ごしたり、 好きな仕事をする時間はとても幸せで貴重なものですが、 その合間に一呼吸おきたくなります。 そんな時はだいたい近くのスターバックスに行き、 メールの返信をしたり、 新聞を読んだり、 仕事をしたり、 英語の勉強をしたりしています。 そうしていることがただ楽しくて、 気持ちがリセットされるようです。　これからも心身ともに自分なりのバランスを取りながらやっていこうと思っています（^v^）

臨時休診

○ 9 月 17 日（土）は、 院長が第 36 回日本性科学会学術集会ならびに第 17 回性科学セミナー参加（長野）のため休診となります。

発行元：村口きよ女性クリニック
http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp
e-mail:con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp